ニ　ュ　ー　ス

日本の火山活動概況（2010 年 5 月～6 月）

気　象　庁

図 1.　2010 年 5 月～6 月に目立った活動があった火山

吾妻山（37°44′07″N，140°14′40″E）

大穴火口の噴気は，50～300 m で推移し，噴気活動はやや高まった状態が続いている．

5 月 6 日に実施した現地調査で，大穴火口の噴気孔周辺で硫黄が燃焼しているのを確認した．その後，5 月 16 日の現地調査では，硫黄の燃焼が止まっているのを確認した．

5 月 4 日 07 時 23 分から約 32 分間及び 27 日 07 時 38 分から約 40 秒間にわたって火山性微動を観測した．4 日の火山性微動の発生後 5 日にかけて地震回数が一時的にやや増加した．27 日の火山性微動の際には，地震回数に変化はなく，噴気は雲のため確認できなかった．

地震回数は，5 月 75 回，6 月 81 回と引き続きやや多い状況で推移した．

5 月 16 日に実施した火山ガスの観測では，二酸化硫黄の放出量は一日あたり 500～700 トンで，前回（2009 年 10 月 29 日）の一日あたり 20～40 トンと比べ増加した．

5 月 21～31 日に大穴火口付近で実施した GPS 繰り返し観測の結果では，前回（4 月 15～20 日）の観測結果と比べて，大穴火口を囲む基線で縮みを示す変化が観測されたが，火口南側の蓬莱山東–浄土平の基線では伸びを示す変化が観測された．

草津白根山（36°37′22″N，138°31′55″E）

5 月 2 日～4 日，6 日～7 日にかけて，及び 6 月 20 日に湯釜火口周辺を震源とするとみられる振幅の小さな火山性地震が一時的に増加した．

地震の増加に伴い地殻変動等には変化はみられなかったが，東京工業大学の観測によると，湯釜火口内北東部の噴気地帯の地中温度は，高温の状態が継続している．

三宅島（34°05′37″N，139°31′34″E）

噴煙高度は火口縁上 100～300 m で推移した．

島内で実施した，COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中 4 回実施）では，二酸化硫黄放出量は一日あたり 400～1,100 トンと，依然として多量の火山ガス放出が続いている．また，三宅村の火山ガス濃度観測によると，山麓で時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている．

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている．発生した地震のほとんどがやや低周波地震（約 3～10Hz が卓越する地震）で，高周波地震（約 10 Hz 以上が卓越する地震）も時々発生した．震源はいずれも山頂火口直下浅部と推定される．

全磁力観測では，火山活動とみられる有意な変化は観測されなかった．

GPS 連続観測では，山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続している．

硫黄島（24°45′03″N，141°17′20″E（摺鉢山））

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると，地震活動は落ち着いた状態で経過した．

国土地理院の観測によると，2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は，2009 年 10 月頃から一時停滞していたが，2010 年 5 月以降再び隆起の傾向がみられる．島内南北方向の伸びの傾向は継続している．

福徳岡ノ場（24°17.1′N，141°28.9′E）

5 月 16 日に第三管区海上保安本部が，6 月 17 日に海上自衛隊が上空から行った観測によると，福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水が確認された．

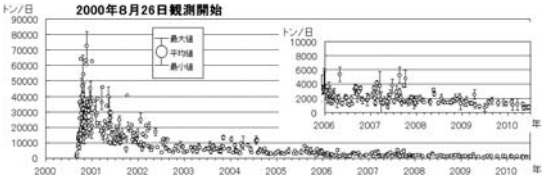

図 2.　三宅島　火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000 年 8 月 26 日～2010 年 6 月 30 日）

海上保安庁海洋情報部，第三管区海上保安本部，海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの上空からの観測で，福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている．

霧島山（新燃岳）（31°54′34″N，131°53′11″E（新燃岳））

5 月 6 日 07 時頃から火山性地震が増加し，その後増減を繰り返しつつやや多い状態が続いている．

5 月 27 日 15 時 36 分に小規模な噴火が発生した．

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が 5 月 27 日に鹿児島県，28 日に九州地方整備局の協力を得て鹿児島大学と共同で実施した上空からの観測では，火口内の西側斜面に新しい噴気孔が確認され，噴気孔周辺に大きな噴石が飛散していた．また，火口から約 1.5 km の中岳まで降灰を確認した．

6 月 27 日 01 時 35 分頃及び 28 日 16 時 02 分にごく小規模な噴火が発生した．これらの噴火に伴う火山性微動を観測した．また，聞き取り調査によると，新燃岳火口の東側約 10 km でごく微量の降灰が確認された．

桜島（31°34′38″N，130°39′32″E（南岳））

昭和火口では，5 月上旬まで爆発的噴火の多い状態で経過したが，5 月中旬から 6 月上旬まで一時的に減少した．その後は再び多い状態で経過した．

5 月は噴火が 35 回（そのうち爆発的噴火は 31 回），6 月は噴火が 107 回（そのうち爆発的噴火は 99 回）発生した．このうち 5 月 30 日 11 時 40 分の爆発的噴火では，噴煙が火口縁上 2,800 m まで上がり，小規模の火砕流が東へ約 700 m 流下した．これらの噴火に伴い，最も遠くまで飛散した大きな噴石は 3 合目（昭和火口から 1,300 m～1,800 m）まで達した．

南岳山頂火口では，噴火は発生しなかった．

COMPUSS を用いたトラバース法による火山ガス観測（期間中 4 回実施）では，一日あたりの二酸化硫黄の放出量は 5 月 12 日は 1,000～2,700 トンとやや多い状態であったが，17 日には 500～900 トン，6 月 3 日，11 日は，一日あたり 600～900 トンと少ない状態であった．

国土地理院による GPS 連続観測では，姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されている．

鹿児島県の降灰量観測データをもとに解析した降灰量は，4 月は約 52 万トン，5 月は約 35 万トンであった．また，2010 年の 1 月から 5 月までの総降灰量は約 340 万トンで，昨年 1 年間の降灰量（約 235 万トン）を上回っている．

薩摩硫黄島（30°47′35″N，130°18′19″E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており，噴煙の高さは火口縁上概ね 100～200 m で推移した．

5 月 13 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では，硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化はなく，硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が上がっているのが確認された．

6 月は火山性地震はやや多い状態で経過したが，火山性微動は観測されなかった（5 月は地震計障害のため不明）．発生した地震の多くが B 型地震で，A 型地震も時々発生した．

諏訪之瀬島（29°38′18″N，129°42′50″E（御岳））

御岳火口では，5 月は爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し，噴火活動は活発に経過したが，6 月は噴火は観測されなかった．火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている．

5 月 13 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では，御岳火口及びその周辺の状況に特段の変化はなく，御岳火口から白色の噴煙が上がっているのが確認された．

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています．

URL　http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

（文責：気象庁地震火山部火山課　岡垣晶子）

○教員公募

【神戸大学・大学院理学研究科・地球惑星科学専攻】

1. 職名・募集人員：教授 1 名
2. 専門分野：広い意味での岩石学・地球物質科学
3. 職務内容：理学研究科地球惑星科学専攻における教育研究ならびに理学部地球惑星科学科における教育に従事し，全学共通教育を担当していただきます．特に野外実習や，岩石学の講義ができる方が望ましい．
4. 応募条件：博士の学位取得者

5. 着任時期：平成 22 年 12 月 1 日以降のできるだけ早い時期
6. 提出書類：
⑴ 履歴書（e-mail アドレスを連絡先として明記）
⑵ 研究業績目録（査読付原著論文とそれ以外に区別．下記（7）の主要論文に○印）
⑶ 各種研究費獲得歴，受賞歴
⑷ これまでの研究経過・業績の内容（2,000 字程度）
⑸ 将来の研究構想および抱負（2,000 字程度）
⑹ 応募者について意見が伺える方 2 名の氏名・e-mail アドレス
⑺ 主要論文（5 編以内）の別刷またはコピー
⑻ 選考の過程でセミナーをお願いすることがあります．
7. 応募締め切り：平成 22 年 8 月 31 日（火）必着
8. 応募書類提出先：〒657–8501 神戸市灘区六甲台町 1–1　神戸大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻長 郡司幸夫

応募書類は「地球惑星科学教授応募」と明記し簡易書留にするか，または宅配便で送付して下さい．また封書とは別に，上記書類は電子ファイル（PDF）として電子メールで（1〜6）と（7）に分割してお送りください．電子メールのヘッダ（To, Subject）は以下に下さい．

To：apply-10a@itpass.scitec.kobe-u.ac.jp
Subject：地球惑星科学教授応募

9. 問い合わせ先：
郡司幸夫（e-mail：fsci-pla-director@edu.kobe-u.ac.jp）
参考：専攻ホームページ
http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/

応募書類は返却しません．選考終了後，個人情報は責任を持って破棄します．

神戸大学は，男女共同参画社会基本法の趣旨に則り，女性の方々の積極的な応募を歓迎します．

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 21 日送信しました）

○教員公募

【北海道大学・大学院理学研究院・自然史科学部門】

1. 職種・人員・専攻分野
自然史科学部門　地球惑星システム科学分野
教授または准教授　1 名
専攻分野：層位学，古生物学あるいは堆積学的手法を用いて，地球史，古環境など，地球表層圏の多様性と進化を研究する分野
2. 応募資格：博士号を取得していること．全学教育（初年次教育）および地球惑星システム科学関連の学部・大学院授業を担当していただける方．当該分野の先駆的研究を推進し，次世代の人材育成に熱意を持って取り組む方を希望します．
3. 着任予定時期：平成 23 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
4. 応募書類
イ）履歴書（内外の学会活動，受賞歴，参加しているプロジェクト研究歴，各種研究費受領歴なども記載すること）
ロ）これまでの研究経過（2,000 字程度）
ハ）研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）
A. 査読のある原著論文
B. 査読のない論文，総説など
C. 著書
D. 解説，報告などその他の出版物で特に参考になるもの
ニ）主な原著論文の別刷または著書 10 篇以内（複写可）
ホ）今後の教育・研究の計画・抱負（2,000 字程度）
ヘ）応募者について照会が可能な方 2 名の氏名と連絡先（電話番号，電子メールアドレス）
5. 応募締め切り：2010 年 10 月 1 日（金）必着

封筒の表に「教員公募関係」と朱書し，簡易書留または宅配便にて送付すること．教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し，審査終了後には適切に処分します．

6. 書類の送付先及び問い合わせ先：
〒060–0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目
北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門地球惑星システム科学分野　中川光弘
電話：011–706–3520　FAX：011–746–0394
電子メール：mnakagawa@mail.sci.hokudai.ac.jp
7. 備考：北海道大学では男女共同参画基本法が制定されて以来，男女共同参画　社会の実現を目指して，様々な取り組みを行っています．教員の公募に関しても，その精神に則り教員の選考を行います．詳しくは以下をご覧下さい．
（http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudousankaku/）

○自然史科学専攻　地球惑星システム科学分野
教員構成（2009 年 6 月 21 日現在）

本分野の教育・研究は以下のような研究グループ制で運営されており，全教員は，大学院教育のほか，全学教育・学部教育も担当しています．

1G（岩石学火山学）教授　中川光弘，准教授　新井

田清信，助教　吉本充宏

2G（公募分野）　教授【本公募】，准教授　小林快次（総合博物館），助教　高嶋礼詩（創成研究機構）

3G（地球化学）　教授　圦本尚義，准教授　角皆潤，助教　中川書子，助教　伊藤正一

4G（地球惑星物質学）　教授【選考中】，准教授　永井隆哉，講師　三浦裕行

5G（地球システム進化）　教授　鈴木德行，講師　沢田　健，講師　渡邊　剛，助教　齋藤裕之（創成研究機構）

6G（ジオテクトニクス）　教授　竹下　徹，准教授　川村信人，講師　前田仁一郎，特任助教【公募中】

9G（資源地質科学）　教授　松枝大治（総合博物館）

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月23日送信しました）

○教員公募

【北海道大学・大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職種・人員：准教授または助教　1名
2. 専門分野：防災情報学に関連する分野．地震火山研究観測センターでは，地震予知，火山噴火予知に関する基礎研究を行っており，そこで蓄積される観測データや研究成果を地震・津波および火山噴火に伴う災害の防止軽減を目指し，広く地域社会に役立つ情報として提供する方法論を研究・実践するために地域防災情報支援室を設置している．

   本公募は地震火山地域防災情報支援室の専任教員を募集するもので，北海道における地震・津波・火山活動の自然災害に関する基礎知識を持ち，地域社会と連携しながら積極的かつ組織的に研究成果の還元および基礎知識の普及・啓発等の地域防災教育研究に社会科学的な視点から取り組むことができる人材を募集する．採用後は本学教員と協力して大学院教育にも携わる事が期待される．
3. 着任予定時期：2011年4月1日
4. 任期：採用日から2014年3月31日まで（延長なし）
5. 応募資格：博士の学位を有する者，または採用時に博士の学位取得見込みの者
6. 応募書類：以下の応募書類を「教員応募書類」と朱書した封筒に入れ，書留にて郵送すること．

⑴ 履歴書（非常勤講師等の教育の経歴，自然災害に対する社会貢献などを含む）

⑵ これまでの研究経過・活動履歴（A4用紙2枚程度）

⑶ 研究業績目録

A. 査読のある論文および総論

B. 査読のない論文および総論

C. 著書

D. 解説，報告書などの出版物

E. 特に参考になる活動資料

⑷ 主な論文の別刷りまたは業績資料　3編程度（複写可）

⑸ 今後の活動方針と研究計画（A4用紙2枚程度）

7. 応募の締め切り：2010年9月3日（金）必着
8. 書類の送付先および問い合わせ先：

   〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西8丁目

   北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター　谷岡勇市郎

   電話 011-706-2640

   E-mail：tanioka@mail.sci.hokudai.ac.jp
9. 参考　当センターの概要，メンバー等は下記のHP参照

   http://www.sci.hokudai.ac.jp/isv/

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月13日送信しました）

○平成23年度研究船利用公募課題の募集

【独立行政法人海洋研究開発機構】

「海と地球の研究5ヶ年指針」（平成20年2月制定）に基づく研究の推進を行うため，所有する研究船「みらい」，「なつしま」，「よこすか」，「かいれい」等を利用する課題を募集いたします．

募集期間は平成22年6月25日（金）〜7月20日（火）までの約1ヶ月間です．

詳しくはウェブサイト（http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/maritec/2011_koubo/）をご覧ください．

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月29日送信しました）

○日本学術振興会「育志賞」創設及び推薦募集について

【日本地球惑星科学連合】

日本学術振興会より，新しい院生向けの賞として，育志賞の創設及び推薦募集の案内がありました．

学協会（日本学術会議協力学術研究団体）の長から1名の推薦が可能となっています．

各学協会におかれまして，該当する優秀な人材を積極的に推薦されますよう是非ご検討のほどお願い申し上げます．

日本学術振興会　育志賞について：

http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html

対象分野：

人文・社会科学及び自然科学の全分野，
受付期間：
平成22年7月29日（木）〜8月2日（月）（必着）
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月17日送信しました）

○「朝日賞」候補者推薦のお願い

【朝日新聞文化財団】

「朝日賞」は，1929（昭和4）年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設したものです．

人文や自然科学など，わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ，文化，社会の発展，向上に多大な貢献をされた個人または団体にお贈りしております．

広く各界の皆様から候補者のご推薦を頂戴したあと，さらに幅広くご意見を伺ったうえ，朝日賞選考委員会で慎重に審議し，受賞者を決定いたします．」

会員の方で，推薦する方がございましたら，8月20日までに日本火山学会事務局にお知らせください．
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月30日送信しました）

○サマースクール開催のお知らせ

【東京工業大学　新学術領域研究「地殻流体」】

■■地殻流体研究会・サマースクール■■

□主催：新学術領域研究「地殻流体」
□日程：9月10日（金）〜13日（月）
□会場：ラフォーレ修善寺（静岡県伊豆市）
□参加費：一般　3泊4日で4万円程度を予定
院生・学生　3泊4日で3万円　程度を予定
ただし参加費には，登録料，宿泊代と全ての会議食費（8食分）が含まれています．
院生・学生の旅費を最大20名程度一部補助する予定です．
□申し込み締切：7月31日
□ホームページ：研究集会・サマースクールの詳細やプログラムは以下をご覧下さい．
http://www.geofluids.titech.ac.jp/summerschool_2010.html
□問合せ先：地殻流体事務局（東京工業大学　地球惑星科学専攻内）
電子メール　geofluid@geo.titech.ac.jp
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました）

○日本第四紀学会公開シンポジウム

「自然史の教育と研究をすすめるために―さまざまな分野からの取り組み」

日本第四紀学会では，自然史教育に関するシンポジウムを下記の通り開催いたします．このシンポジウムは公開で行われ，第四紀学会の会員・非会員を問わず参加できます．事前の参加登録は必要ありません．参加費は無料です．当日会場に直接お越し下さい．シンポジウムは，講演と，合計147件もの活動紹介のポスター展示・実演を行うポスターサロンからなります．夕方のポスターサロンではビールの販売も行いますので，ビールを片手にざっくばらんに情報交換をしてください．

趣旨：自然史学の一分野といえる第四紀学にとって，自然史教育のあり方を考えることは重要である．これまで，学校教育現場における地学，地理の履修者の減少の問題が多く取りあげられてきたが，一方で生涯教育の現場や各地域で第四紀学の成果を踏まえた活発な自然史教育や普及活動が進められている．このシンポジウムでは，それらの特色ある活動をされている方に報告していただく．第四紀学の成果をどう展開し，いかに社会に発信していくか，そして，これからの自然史教育をどうすすめていくか議論する．

日時：2010年8月22日（日）10：00–18：00
講演会場：東京学芸大学学芸術館ホール

ポスターサロンの題目，解説者については，以下の日本第四紀学会のHPで，会報の9から13ページをご参照下さい．

http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/report/QRNL1704.pdf
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月2日送信しました）

○日本地球惑星科学連合事務局からのお知らせ

「IPCC第4次報告書を取り巻く状況について」

気候変動に関心のある皆様へ

2005年までの過去100年間，大気CO_2濃度は280 ppmから380 ppmへと増加した．この濃度の上昇は，人為起源のCO_2の排出，すなわち化石燃料の消費にその原因を求めることができる．一方，全球平均気温は，同期間に，約0.7℃上昇した．この地球温暖化の原因について，2007年11月に発表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第四次評価報告書（例えばhttp://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/ipcc/ar4/index.htmlを参照）では，人為起源の温室効果ガスによってもたらされた可能性が非常に高いという結論を出した．

最近になり，IPCCにおける作業の公正さや，一部のデータの確実性などについて疑問を呈する見解が見られるようになり，これに対して国際科学会議（ICSU）から，声明文が提出された．私たち，日本学術会議地球惑

星科学委員会の有志は，国際科学会議の声明に賛同するものであり，さらに今後の対応のあり方などについて，以下に声明を表するものである．

自然の正しい理解は容易ではなく，様々な見解が存在し，かつ，それを自由に討論してゆくことが，真理への唯一の道である．私たちは，IPCC の評価報告書作成の作業において，このことが担保されてきたと信じており，同時にこの点において，さらなる向上を目指すべきであると考えている．

添付 1：日本学術会議地球惑星科学委員会声明文
添付 2：国際科学会議声明文（英文）
添付 3：国際科学会議声明（添付 2 和訳）
平成 22 年 6 月 23 日
日本学術会議地球惑星科学委員会有志一同
委員長　平　朝彦　副委員長　大谷栄治　幹事　安仁屋政武　幹事　滝沢由美子
委員（順不同）
碓井照子　岡部篤行　北里　洋　中島映至　永原裕子　安成哲三　荒井良雄　石田瑞穂　井上　一　今脇資郎　入倉孝次郎　尾池和夫　大久保修平　大久保泰邦　岡田尚武　岡田義光　奥村晃史　上出洋介　蒲生俊敬　木村学　久城育夫　熊木洋太　河野　長　斎藤靖二　佐々木晶　佐竹健治　佐藤　薫　柴崎亮介　高橋栄一　高橋敬子　竹内邦良　田村俊和　千木良雅弘　津田　敏　鶴田浩一郎　富樫茂子　中田節也　中村和郎　西田篤弘　野上道男　長谷川昭　花輪公雄　浜野洋三　春山成子　氷見山幸夫　深尾良夫　藤井敏嗣　松井孝典　松岡俊文　松本　紘　松本　良　三上岳彦　村山祐司　森田　喬　山形俊男　山下輝夫　圦本尚義　若土正曉　渡邊眞紀子
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 2 日送信しました）

○「火山」特集号への投稿案内

日本火山学会員の皆様

桜島火山に関する火山特集号への論説・総説を，下記の通り募集します．是非，ご投稿下さい．

投稿の概数を把握したいので，現段階でご投稿を予定されている方は，特集号の編集委員の一人（井口正人氏，iguchi@svo.dpri.kyoto-u.ac.jp）まで，仮のタイトルと著者名を 7 月 16 日（金）までにお送り下さい（期日までにタイトルを送られない方も投稿できます）．

1. 特集号タイトル　Volcanic Process of Sakurajima
2. 言語　英語
3. 出版の形式　別冊（予定）
4. 特集号編集委員　井口正人（京都大学），小林哲夫（鹿児島大学）
5. 投稿締め切り予定日　平成 22 年 12 月末日
6. 特集号発行予定日　平成 23 年 8 月
7. 投稿先　火山学会事務局（桜島特集号と明記のこと）
8. そのほか 「火山」投稿規定に従う．

発行の目的

桜島火山は 1955 年に南岳の噴火活動が始まり，現在まで 7900 回におよぶ爆発的噴火活動が繰り返されている．一方，2006 年に 58 年ぶりに再開した昭和火口の噴火は徐々に噴火活動の激しさを増しているのが現状である．南岳の爆発期においては京都大学防災研究所桜島火山観測所を中心に地球物理学的観測研究によりマグマ供給系や火山爆発機構について研究がなされ，全国の研究者が参画した火山噴火予知計画に基づく集中総合観測は 10 回を数え，火山活動の評価がなされてきた．共同利用研究所としての防災研究所の共同利用にも多くの研究者が参加し，化学，岩石，地質，モデル化を含めて真に学際的調査研究がなされるようになってきた．昨年度から始まった地震及び火山噴火予知のための観測研究計画では，桜島を火山噴火準備過程にある火山としての代表的テストフィールドと位置付け，多項目の観測がなされている．

本特集号は，桜島火山の活動に関する最近の科学的研究成果をまとめるものである．歴史時代から現在までの桜島火山の活動を振り返るとともに，現在の桜島火山の活動についての多方面の学際的研究をもとに，火山深部から極浅部までのマグマ活動を考察する．

意義

2013 年には IAVCEI 総会が鹿児島市で開催される予定である．鹿児島市にあり，日本の代表的な活火山である桜島についての研究成果を取りまとめたものは，世界に向けて日本の火山学を知ってもらう重要な位置付けになる．

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 25 日送信しました）

○2010 年日本火山学会秋季大会のお知らせ

2010 年秋季大会は，京都大学　吉田キャンパスで開催されます．

詳細は「火山」55 巻 3 号に掲載されますが，最新の情報は大会ホームページでご覧ください．

http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/kazan2010/index.html

1. 期日
2010 年 10 月 9 日（土）～11 日（月・祝日）
10 月 09 日（土）午前　講演会
午後　講演会・公開講座

10 月 10 日（日）午前　講演会
午後　講演会・公開講座・臨時総会・懇親会
10 月 11 日（祝）午前　講演会
10 月 11〜13 日　現地討論会（熊野酸性岩と潮岬火成複合岩体）

2. 講演会場
京都大学大学院人間・環境学研究科棟（〒606–8501 京都市左京区吉田二本松町）
（http://www.h.kyoto-u.ac.jp/access/）

3. 参加料（講演予稿集込み）
会員（維持・学術・一般）: 2,000 円
会員（学生・満 70 歳以上）: 1,000 円
非会員 : 4,000 円
※予稿集のみの販売も同額になります．学会事務局にお申し込みください．
発行は 9 月中旬を予定しています．
※学部学生・高校生等の参加料は無料ですが，予稿集は別途購入してください（1,000 円）

4. 講演申し込み・予稿集原稿提出
http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/doc/2010_fallmeeting_application.html
締切
郵送の場合（学会事務局着）　8 月 12 日（木）
Web 登録 & 予稿集 PDF メール送信の場合
8 月 12 日（木）午後 4 時

5. 秋季大会連絡先
〒606–8501 京都市左京区吉田二本松町
京都大学大学院人間・環境学研究科
2010 年度秋季大会実行委員会　金子克哉委員
E-mail : kazan2010@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

6. 特別セッションのお知らせ
今大会では，以下の 2 つの特別セッションを開催します．皆さまの積極的な報告を期待します．詳細は大会ホームページをご覧ください．
●火山教育とジオパーク
●近代火山学・噴火予知研究ことはじめ〜大森房吉博士の活躍 100 周年

7. シンポジウム・公開講座のお知らせ
●火山防災シンポジウム「活火山の監視観測体制と火山情報のあり方を考える」
日時 : 10 月 8 日（金曜日）13 時 30 分–17 時 30 分
会場 : 京都大学宇治キャンパス　宇治おうばくプラザ
●日本火山学会第 17 回公開講座「火山学者と火山を作ろう！ in 京都」
日時 : 10 月 9–10 日（土曜日・日曜日）14 時 00 分–16 時
会場 : 京都大学　吉田南構内　吉田南総合館北棟 1 階

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 25 日送信しました）